

「自立活動」学習指導案

指導者 藤井 朋子

日時 平成24年12月1日(土) 第1校時(10:00~10:50)

年組 中学校第1学年3組 6名(男子4名, 女子2名)

場所 中学校第1学年3組教室

題材 「目標に向かってチャレンジ&エンジョイ」

題材について

本学級は知的障害特別支援学級である。学習面では、学年相応の学習を行っている生徒もいれば、ひらがなや10までの数概念を学習している生徒もいる。生活面では、話し言葉によってコミュニケーションがとれる生徒から言葉の意味理解が難しい生徒、発語が困難な生徒もいる。生徒の実態は幅広い。しかし、どの生徒にも共通して言えるのは、学校生活全般において、他の生徒のことが気にかかり自分のやるべきことに集中して取り組めない、そして集中できないことや課題を達成できなかったことを他人のせいにして、「できない」と早々にあきらめたりする自信のない様子が見られるということである。このような様子から、自己肯定感が高まっていない状態がうかがえる。

そこで、自己肯定感を高めるための取り組みの一つとして、ワークシステムを用いた学習(以下、WS学習)を取り入れることとした。WS学習により、自分がやるべきことを把握し集中して取り組む力、そして最後までやり遂げる力がつくということが実証されている(小田原ら、広島大学附属東雲中学校研究紀要『中学教育』、2010)。本学級に取り入れるにあたっては、生徒一人ひとりの実態を考慮し、WS学習の課題を20種類以上用意した。生徒の様子に合わせて内容や量を調節し、本学級の幅広い生徒実態にも対応できるようにした。WS学習を実施する際に、まずシステムや課題に慣れることから始めた。自分に与えられた課題を間違わずに選んで行うことや、わからないことがあれば挙手をして質問すること、私語をせず集中して行うこと、課題を遂行したら報告してチェックを受けること、といった課題への取り組み方や決まりに重点を置いて指導を行った。システムに慣れてきたところで、次の段階では、きちんと課題を遂行することに重点を置いて指導し、課題が達成できたらポイントを取得できるという仕組みを付加した。ポイントカードにスタンプを押していき、ポイントが増えていくことで達成感を味わえるようにした。全員のポイントカードが一杯になったら、お楽しみ会ができることになっており、それを励みに一人ひとりが意欲的に課題に取り組むことができた。課題を遂行するスピードが速くなり、量もこなせるようになったところで、次の段階では、WS学習後の時間に製品作りの課題を取り入れることにした。それまでは、課題終了後の時間を、読書やパズルをする等、各自何をしてもよい自由な時間として設定していたが、この余暇の時間を利用して生徒一人ひとりが製品作りに取り組むことにした。なお、本題材では、将来的な生産活動への従事・販売を生徒に意識づけるために、“作品”等ではなく「製品」という言葉を用いた。製品作りの素材には、ビーズや折り紙といった、どの生徒にも身近で馴染みがあり、扱いやすく、アイデア次第でいろいろな形や機能を持った製品を作ることが可能なものを選定した。与えられた課題をこなすだけでなく、自分で試行錯誤しながら製品を作る経験は、「職業生活」の授業における商品開発の場面等で生きてくるだろうと考えた。また、身近な素材を使った活動であることから、家庭生活における般化も考えられ、余暇活動として拡がり、発展していくことも期待できると考える。

本時は製品発表会を行う。これまでの製品作りの成果を一人ずつ発表したり、他の生徒の製品発表を聞いて評価したりする学習活動を行う。他の生徒からの肯定的評価をボーナスポイントという数値にして、それまでのWS学習で得たポイントに加算することで、達成感を持ち自己肯定感を高めたいと考え

ている。指導にあたっては、自信を持って発表できるように、発表内容をあらかじめ発表シートにまとめておくようにする。また、ボーナスポイント分のシールをポイントカードに貼るようにして、自分が頑張った成果、他の生徒からの肯定的評価を視覚的に実感できるようにしたい。この製品作りの経験が、職業生活の授業や今後の学校生活、さらには将来の就労生活で活かされることを期待している。

指導目標

1. やるべきことを把握し集中して取り組み、最後までやり遂げる力をつける。
2. 製品作りを通して、自分の良さを感じられるようにするとともに、他の生徒の良さに気付き認める気持ちを育てる。

指導計画

1. WS 学習（個別課題学習）…………… 8 時間
2. ポイント制を付加した WS 学習……………10 時間
3. ポイント制を付加した WS 学習＋製品作り（1）……………10 時間
4. 製品発表会（1）…………… 1 時間（本時）
5. ポイント制を付加した WS 学習＋製品作り（2）……………10 時間
6. 製品発表会（2）…………… 1 時間

本時の目標

1. 製品作りの成果を発表し、肯定的評価を得ることで、達成感を持つことができる。
2. 他の生徒の製品の良いところを見つけることができる。

生徒	実態	目標行動
①	全体への語りかけは、聞いていないことや理解できていないことがある。課題は最後までやり遂げようとする。	他の生徒の発表をよく聞き、良いところを見つけて評価シートに記入することができる。
②	話の内容を間違えて捉えていることがある。課題は、ゆっくりだが丁寧に最後までやり遂げようとする。	他の生徒の発表をよく聞き、良いところを見つけて評価シートに記入することができる。
③	見通しが持てずに気持ちが不安定になったり、周囲が気になり集中力が途切れたりする。見通しが持てれば、意欲的に取り組むことができる。	本時の学習に見通しを持ち、自分の製品を発表したり、他の生徒の発表を聞いて良いところを見つけたりすることができる。
④	学習活動への取りかかりに時間がかかる。簡単な指示理解はできるが言語表出が難しい。自分の役割は果たそうとする。	身振りや簡単な発語を交えて、自分の製品を発表したり、他の生徒の製品や発表に注目したりすることができる。
⑤	他の生徒の発言中や話す内容がまとまらないうちに話し出してしまう。学習には意欲的に取り組み、物事を多角的に捉えようとする。	人の話を最後まで聞くことを心掛け、他の生徒の製品の良いところを見つけて評価シートに記入することができる。
⑥	物事にじっくり取り組むことが苦手である。気持ちのコントロールが難しいが、言われたことには応えようとする。	言葉かけを受け入れて他の生徒の製品や発表に注目し、評価シートに記入することができる。

「学びのつながり」の視点

課題を遂行した達成感により得られる自己肯定感と、他者から受けた肯定的な評価によって、知的障害のある生徒の「社会的自尊感情」が育まれ、今後の学習活動に意欲的に取り組もうとする姿につながるのかを実践を通して検証する。

準備物 学習の流れを示したシート、製品、発表シート、評価シート、集計表、計算機、ポイントカード、シール

学習の展開

学習活動 (□) と支援 (●)	指導上の留意点 (◆評価)
<p>1. 学習の流れ・目標の確認 (5分)</p> <p>□本時の学習について話を聞き、目標を確認する。</p> <p>●学習の流れを書いたシートを掲示し、読むよう促す。(①②③)</p> <p>2. 製品発表会 (25分)</p> <p>□発表者は前に出て自分の製品を披露し、用途や工夫したこと、苦労したこと等を発表する。</p> <p>●発表内容は事前に発表シートにまとめておく。(全員)</p> <p>□製品を見たり触れたりして、質問や感想を出し合う。</p> <p>□発表に対して発表者自身も含め全員が評価シートに記入する。</p> <p>●評価シートの項目を一つずつ読み上げる。(②, ③, ④)</p> <p>●一人の発表が終わる毎に評価シートに記入するようにする。(全員)</p> <p>3. ボーナスポイントの計算 (10分)</p> <p>□自分の製品に対する評価シート (6枚) のポイントを集計し、ボーナスポイントを計算する。</p> <p>●集計シートを用いて、集計の仕方を一つ一つ説明しながらモデルステップで行う。(全員)</p> <p>●計算機を用いる。(必要な生徒)</p> <p>4. ポイントカードにシールを貼る (5分)</p> <p>□ボーナスポイント分のシールを受け取り、カードに貼る。</p> <p>5. 学習の振り返りと今後の学習の確認 (5分)</p> <p>□本時の学習を振り返る。</p> <p>●これまでの学習に対して肯定的な言葉かけで評価をする。</p> <p>□今後の学習を確認する。</p> <p>●今後のスケジュールを伝え、学習への見通しを持てるようにする。</p>	<div data-bbox="1050 609 1375 770" style="text-align: center;"> <p>出入り口</p> </div> <p style="text-align: center;">〈座席表〉</p> <p>○発表するときの姿勢や声、発表を聞くときの姿勢や心がけることについて確認する。</p> <p>◆自分の製品を2～3のエピソードを交えて紹介することができたか。他の生徒の製品の良さを見つけることができたか。(①, ②, ③, ⑤)</p> <p>◆自分の製品を指導者と一緒に紹介することができたか。他の生徒の発表に注意を向けることができたか。(④, ⑥)</p> <p>○正しく計算できているか確認をする。</p> <p>◆ボーナスポイントを得て、言葉や表情、態度で喜びを表現したか。(①, ②, ③, ⑤)</p> <p>◆ポイントが増えたことを理解して、言葉や表情、態度で喜びを表現したか。(④, ⑥)</p>

参考文献

近藤卓著『自尊感情と共有体験の心理学 理論・測定・実践』金子書房、2010。